

児童・生徒の現状・課題

新しい問題に出会ったときに、興味をもって取り組もうとする児童が多いが、どのように解決すればよいのかが分からず諦めてしまう児童が多く見られる。友達と一緒に活動することを好むが、友達の考えを聞くよさや、必要性を感じることができていない。

学び続ける力を育むための重点目標

自分の考えをもつために選択場面を設定したり、友達と考えを共有しながら交流できる場面を設定したりすることで、自分の考えを深められるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80	85	
②他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりすることは、自分の力をのばすのに役立っている。	87.2	89	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.3	85	
②授業では、他の人と考えを共有したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童生徒の思考を深めたり、広げたりできるようにしている。	95.9	97	

具体的な手だて①(選択する場面)

学習道具や学習方法、学習形態を選択する場面を設定し、自分なりの考えをもてるようにする。

具体的な手だて②(見直す場面)

友達と関わり合う場面を設定し、自分の考えを見直したり、深めたりできるようにする。

具体的な手だて③(振り返る場面)

振り返りの工夫を行い、自身の理解度や学習方法について振り返ったり、次時への見通しをもったりできるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・研究推進部のメンバーを中心に学年に声をかけ、研究テーマに沿った実践を行い、報告する。教職員全体に周知し、いつでも見に来られる雰囲気をつくる。
- ・自己申告の授業観察の際は、「選択する場面」「交流する場面」「教師の役割」を意識した授業を行い、教員同士で互いに見合うようにする。

総括(5月)

単元の最後まで児童の学習意欲を持続させることに未だ課題がある。自発的な学びを促すには、課題や方法を自ら選択させる授業になるように教員間で共有した。授業改革の軸として、日々の実践の中に「選択の場面」を設けることや、「既習の活用」を促すこととする。児童が「やってみよう」と思えるよう、教員が事前にきめ細かな手だてを整え、主体的・対話的で深い学びへと向かう環境作りに注力したい。

総括(1月)